

くぼせきのだい
市原市 久保堰ノ台遺跡

久保堰ノ台遺跡は、養老川の河口から直線で約 23km 上流の北岸、標高約 60m の台地上にある集落跡です。現在までに約 30 軒の竪穴住居跡が見つかり、そのほとんどは縄文時代中期後半(今から約 4,500 年前)のもので、出土した土器もほとんどが中期後半のものです。

台地北側の斜面部付近には何度も建て替えられた住居跡があり、お墓や貯蔵用の多数の穴、埋甕炉(まいようろ)のような特異なものも見つかっています。集落が営まれたのは限られた期間でしたが、安定した暮らしぶりをこれらの遺構や遺物から知ることができます。



遺跡全景
(北西側から。右の水面は高滝湖)

遺跡全景
(南側から)





礫(れき)を使った炉跡



竪穴住居跡



円形土坑



大小が入れ子になった土器
(外側の大きな土器は炉として使われていた)



外側の土器の側面



内側の小さな土器